

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	大阪市更生療育センター（児童発達支援センター）		
○保護者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和7年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	77	(回答者数) 55
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和7年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援体制	児童指導員、保育士のほか、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師、管理栄養士、相談支援専門員などの専門スタッフを配置し連携することにより、多様な視点による支援体制を整えています。	より専門性を活かした療育プログラムを実施していくため、スタッフの研修受講等を積極的に推奨し、常時、専門性を高める努力をしています。
2	保護者に対して家族支援プログラム	親子での通園を通して、療育場面をお子さまやご家族と共有することで、ご家族に対する支援を実施しています。 また、ペアレントトレーニングを実施しています。	お子さまだけでなく、ごきょうだいを含むご家族の相談援助の実施に努めています。 ご家庭での生活場面における助言や提案を行う機会を拡充するよう努めています。
3	児童発達支援計画の作成	児童発達管理責任者やクラス担当スタッフを中心とし、支援会議を行い、個々の発達状況に応じた療育目標および内容を立案しています。 また、その療育目標等をスタッフ間で共有しています。	お子さまの理解やスタッフ間の連携を深めることで、より支援の質を高めていけるよう取り組んでいくよう努めています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域で他のこどもと活動する機会、保育所等との交流	保護者の方や地域の方々への情報提供・周知が不十分であった、と考えています。	障がい者支援施設（施設入所支援）を併設しており、事業所としては感染対策を行いながら、地域における子育て支援として、ひらの子育てフェスタに参加しイベントを実施しました。さらに、保護者の方や地域の方々へ周知徹底していくように努めます。
2	会報やホームページ等の発信	保護者の方への情報発信の周知が徹底されていなかった、と考えています。	ホームページの変更や自己評価の公表について周知徹底すると共に、更に見やすいように工夫します。
3	生活空間	清掃を毎日実施し、生活空間の環境整備に努めていますが、施設の老朽化(40年超経過)に伴い、古く感じられるお部屋もある、と考えています。 月1回の空調設備点検のため、暑い時期や寒い時期に療育時間の短縮を実施しており、お子さまやご家族さまにはご迷惑をおかけしている、と考えています。	大阪市の建物であるため、改修等が必要な場合は、随時、大阪市へ報告をしています。